

石狩の神社

石狩の神道の歴史は、元禄7（1694）年の石狩辨^{べん}天社（弁天社）の創始に始まります。その後、明治期に農業開拓のための入殖に伴って、市内各地に神社が設けられました。創建後、時代の変化などにより移転、廃止されたものや合祀されたものも少なくありません。

（三島照子）

石狩（旧石狩市域）の神社

名称	所在地	創始	備考
石狩辨天社	弁天町北18	元禄7（1694）年	妙亀法鮫大明神を合祀。
石狩八幡神社	弁天町1	安政5（1858）年	茨城の水神、札幌神社分神を合祀。
稲荷神社	八幡2丁目	江戸期	
花畔 ^{はななべ} 神社	花畔573	明治5（1872）年	花畔瑞穂神社、相馬妙見太田神社を合祀。
生振 ^{なまふり} 神社	生振557	明治6（1873）年	伏籠神社を合祀。
樽川神社	樽川519	明治20（1887）年	昭和47年現在地に移転。
高岡神社	八幡町高岡22	明治22（1889）年	大正14年に現在地に移転。
南線神社	花川3条1丁目24	明治27（1894）年	昭和54年現在地に移転。
生北神社	生振北8線8号	明治34（1901）年	稲荷神社を合祀。
美登位 ^{みとうい} 神社	美登位	明治34（1901）年	石狩八幡神社から分社。
五の沢神社	八幡町高岡	明治35（1902）年	石狩八幡神社の末社。

（「石狩町誌／下」から現存するもののみを抜粋）

（1）石狩市（1997）石狩町誌／下、石狩市。